

授業改善視点表 (T 2 型 ・ 1994 年版)

東京工業大学教職研究グループ

年 月 日 時限 学年 クラス 科目 授業者 評価者

(評価の欄には、改善が必要な場合に × を、よかった場合に、大変良かった場合に 印をつけて下さい)

| 項目 | 改善視点 | 評価 | コメント |
|---------------------------|--|----|------|
| A 教授意図 や目的の 明確化 | 1. どのような意図で行動しようとしているのか意識する | | |
| | 2. 生徒に、今、何をすべきなのかを明確に指示する | | |
| | 3. ~しなさい / した方がよい / してよい / してはいけない等の区別を明確にする | | |
| | 4. 説明しているのか、発問しているのかを明確にする | | |
| | 5. 全体に話しているのか、個人に話しているかがクラス全体に分かるようにする | | |
| | 6. 何をどう答えてよいのかが明確に分かるように発問する | | |
| | 7. 発問内容に応じて、次の生徒を指名する / ヒントを与える等を適切に判断する | | |
| | 8. 生徒に、学習活動の目的や期待される結果を明確に示す | | |
| B 教授行動 のタイミ ング | 1. 生徒が教師の方に注意を向けていることを確認して説明や演示を行う | | |
| | 2. 生徒の学習活動の様子を観察して、黒板を書く時期、消す時期を考える | | |
| | 3. 発問の内容に応じて、適切に時間を与えてから指名する | | |
| | 4. 指示を必要とする状況が発生した時に、時期を逃さず直ちに指示を伝える | | |
| C 説明や板 書の仕方 | 1. 生徒の方を向いて語尾まではっきり話す | | |
| | 2. 馴染みのある用語、平易な表現、具体例、図表などを用いて理解を助ける | | |
| | 3. 繰り返す、言い替える、ゆっくり話すなど工夫して理解や記憶を助ける | | |
| | 4. 抑揚のつけ方や間の取り方に注意して、強調したり、注意を引きつけて話す | | |
| | 5. 字の大きさや太さ、行間の空け方に注意して見やすく板書する | | |
| | 6. 色チョークを使ったり、レイアウトを工夫して、強調したり、見やすくする | | |
| D 評価や生 徒の反応 への対応 | 1. 知識・理解だけでなく、興味・関心の程度を評価する発問も行う | | |
| | 2. 指名や個別指導、評価対象が特定の生徒に偏らないように注意する | | |
| | 3. 正誤を知らせたり、ほめ励ましたりして、生徒の意欲を高める | | |
| | 4. 生徒の反応を、簡潔にわかりやすく解釈して全体に伝える | | |

その他.....

.....

.....

.....

補足

- A - 1 . 興味を持たせる、注目させる、印象づける、理解を助ける、考えさせるなどの教授意図を明確にしましょう。
- A - 2 . 話を聴く、教科書を見る、黒板を見る、黒板を写す、問題を解く、話し合う、思い出すなどの指示を明確にしましょう。
- A - 3 . ノートにとる / とらない、提出する / しない、 ~した方がよい / してよい / してはいけないなどの区別を明確に伝えましょう。
- A - 4 . 説明から発問にうつる時には、これから発問するということを生徒に明確に伝え、注意を向けさせるようにしましょう。
- A - 5 . 指示する時、全体に対してか、特定の個人に対してかを明確にしたり、指名の時、誰を指名したのかを明確にしましょう。
- A - 7 . 思い出して答える発問か、考えて答える発問かを明確に区別して、次の生徒を指名するか、ヒントを与えるかを判断します。